

# からすま病院 NEWS

発行：社会福祉法人京都社会事業財団  
京都からすま病院  
広報委員会



院長 岡村 隆仁

## 年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

京都からすま病院を代表して、新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、健やかな新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

旧年中は、当院に賜りました、数々のご厚情と温かいご支援に対し御礼申し上げます。

### ◆『新たな地域医療構想』

2024年末に厚労省から「新たな地域医療構想に関するとりまとめ（ガイドライン）」が示されました。この2040年を見据えた「新たな地域医療構想」は、従来の病床機能の分化・連携に加え、外来医療、在宅医療、そして介護との連携を強化することが特徴であり、高齢化の進展や生産年齢人口の減少といった社会の変化に対応し、質の高い医療を効率的に提供できる体制を構築することを目指しています。

この新たな構想では、「医療機関機能」が最も重要なキーワードとなります。

限りある医療資源を最適化しながら、「治す医療」と「治し支える医療」を担う医療機関それぞれの役割を明確にし、地域完結型の医療・介護提供体制を築くためのものであり、地域包括ケアシステムの中での当院の役割を明確にしてまいります。

### ◆『当院の取り組み』

地域課題のひとつでもあり関係機関から要望されていた高齢者救急搬送を微力ではありますか取り組むことを決めました。その後、一般急性期病棟を2024年診療報酬改定で新設された地域包括医療病棟へ移行したこと、回復期リハビリテーション病棟との院内連携もスムーズに進むようになりました。このことで入院医療だけでなく、外来医療や在宅医療、介護と連携しながら入院早期からのリハビリ・退院調整等を行い、早期の退院へつなげ、退院後のリハビリ等の提供も効果的に提供できるようになりました。

結びになりましたが、本年も、患者さんお一人おひとりに寄り添い、高齢者の皆様が、医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で自立した生活を続けることが目的の、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される、地域包括ケアシステムの実現に欠かせない病院として、病院理念である「思いやりのある医療を実現する。」に取組んでまいります。

引き続き、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

2026年1月1日

# 第3回地域連携懇談会



当日参加のスタッフ一同



京都大学臨床神経学  
松本 教授

令和7年10月25日（土）、近隣の医療機関・施設の皆様と「顔の見える関係」の構築を目指し、第3回地域連携懇談会を開催しました。地域医療機関・施設より102名の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

第1部では、当院脳神経内科部長 木村 格による講演を行いました。また、その後、特別講演として、京都大学大学院医学研究科臨床神経学教授 松本 理器 先生に「治るてんかんを見逃さない～高齢発症てんかんの診断と治療～」と題しご講演をいただきました。動画を交えた興味深くわかりやすい内容に、各講演とも参加者の関心が高く、第1部終了後の懇親会でも、活発な情報交換が行われていました。

今後も地域の先生方や関係機関の皆さんからいただいたご意見等を活かし、連携を図ってまいります。引き続き、よろしくお願ひいたします。